



木綿地藍染熨斗目小華繫紋折縫絞着物 片野元彦
1960年代後半 工房 草土社蔵

特別展

藍染の絞り 片野元彦・かほりの仕事

2022年9月13日(火) — 12月4日(日)

開館時間 午前9時—午後5時
休館日 月曜日(ただし祝日は開館)
観覧料 一般500円 大高生300円
中学生以下と70歳以上、豊田市内在住・在学の高校生、
障がい者は無料(要証明書)

国際芸術祭「あいち2022」現代美術展チケット
(1DAYパス、フリーパスいずれも可)を持参の方は、
観覧料が100円引きとなります。

交通案内 電車/名鉄三河線平戸橋駅より徒歩約15分
車/東海環状自動車道豊田勘八ICより10分

特別協力 日本民藝館
出品協力 日本民藝館、工房 草土社、株式会社竹田嘉兵衛商店
主催 豊田市民芸館 共催 中日新聞社



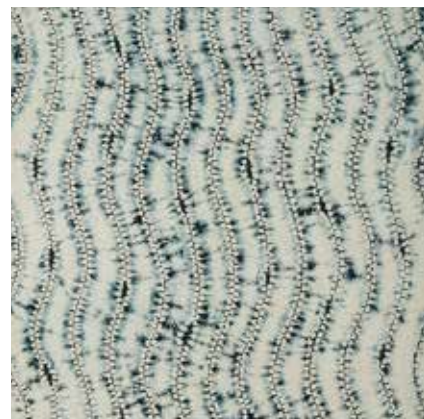
豊田市民芸館 

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町波岩86-100
TEL 0565-45-4039
<https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/>

藍染絞りの第一人者として知られる片野元彦^{かたのもとはこ} (1899-1975)は、名古屋で生まれ、若い頃は画家の岸田劉生^{きしだりゅうせい}に師事し洋画家を目指していました。岸田の急逝後には染物を学ぶようになり、藍染絞りの道に専念したのは57歳の時、日本民藝館創設者の柳宗悦^{やなぎむねよし} (1889-1961)に、産地である有松・鳴海の絞りの仕事を再興するよう託されたのがきっかけでした。以降76歳で亡くなるまで、「絞染職人」として、天然藍を中心に植物染料を使った絞り染の着物や服地、暖簾や飾布など生活の中で使用される布の制作に邁進しました。

本展は、片野元彦の絞り染作品に加え、父・元彦の仕事を献身的に支え続け、父の死後も真摯な仕事を生涯続けた絞り染作家の長女・かほり (1932-2016)の作品を展示します。また、書簡などの関連資料、親交のあった写真家・藤本巧^{ふじもとたくみ}撮影による片野元彦・かほりの写真も併せて紹介し、日本民藝館の新収蔵資料から、河井寛次郎^{かわい かんじろう}の書、かほりの作品等が初出展されます。天然藍による色の深みと、藍と白のコントラストが醸し出す生き生きとした紋様の力強さをご堪能ください。

1. 木綿地藍染筋立段紋折巻絞広巾 片野元彦 1970年代前半
2. 木綿地藍楊梅染松皮菱紋巻上絞広巾 片野元彦 1963年
昭和38年度日本民藝館展 日本民藝館賞受賞作
3. 木綿地藍染竜巻絞広巾 片野元彦 1950-60年代前半
4. ワッフル地藍染折縫絞紋布 片野かほり 2012年
5. 木綿地藍染よろけ縞紋白影絞広巾 片野元彦 1950-60年代前半
6. 木綿地藍染鋸段絞着物 片野元彦 1970年代前半
すべて日本民藝館蔵



記念講演会「片野元彦・かほりのこと」

日 時：10月22日(土)午後2時-3時半
講 師：藤本巧(写真家)
会 場：第3民芸館
聴 講：無料(ただし会期中の観覧券の提示必要)
定 員：30名(事前予約制)

藍染絞り体験

日 時：10月29日(土)午前10時-午後3時
内 容：木綿のハンカチに合わせ縫い絞りを施して藍で染色します。
参加費：3,500円
定 員：小学5年生以上12名

◆「記念講演会」「藍染絞り体験」申込みについて
往復はがき、またはホームページの講座申込みフォームで、講演会は10月4日(火)・絞り体験は10月18日(火)までに必着。往復はがきの場合は、往信裏面に講座名・参加者名(子どもは学年も)・住所・電話番号を記入。(1枚のはがきで2名までの申込み可)

ギャラリートーク(展示解説)

日 時：11月6日(日)午後2時-1時間程度
集 合：第1民芸館
聴 講：無料(ただし当日の観覧券の提示必要)
定 員：先着15名(事前申込み不要)



交通のご案内 電車 名鉄三河線平戸橋より徒歩15分、猿投駅よりタクシー7分
 車 猿投グリーンロード枝下ICで降り右折10分
 東海環状自動車道豊田勘八ICより10分

豊田市民芸館

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町波岩86-100
TEL 0565-45-4039 <https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/>